

「2022年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 井上周哉

この度、チュラーロンコーン大学スプリングスクールに参加させていただき、現地の学生たちや教職員の方々と関わる機会を持つことができ、大変ありがたく貴重な経験をすることができました。またタイ・バンコクのさまざまな施設・観光地にも有意義に訪れることができました。この2週間という短期間ながらに濃密な経験を通して、多くのことを学び、実感できたと思います。特に、学生たちと一緒に「日本とタイの比較」という発表を短期間で準備したことは、本スプリングスクールならではの経験だったと思います。まず使用する言語を模索するというところから始まり、限られた時間と資料の範疇で可能なことを見極め、かつオンラインと対面の両方で十分に議論ができる時間を確保するなどといった過程を経て、ようやく議題を深めることができる。言語の違い、制限された時間と資料、そういった制限をまず見極めるという過程がいかに煩雑であり、慎重を要する重要なものかということを実感しました。この実感こそ国際理解の前提ではないかと思いました。また、言語・時間の制限をなくすために、より高度な学習や留学が必要であるとも思いました。

今回の留学では、チュラーロンコーン大学の学習とは別に、自由時間を利用してさまざまな場所に訪れることができました。そのなかでも元来の目的であったタイ現代芸術に触れることができたのはとても良い経験でした。美術館・博物館に展示されている絵画・彫刻から、バンコクの至る所に見られるストリートアート、そのほかにも映画資料館やドラマ制作会社にも訪れることができました。そのため、チュラーロンコーン大学での文化の授業で学習したことや、観光地の寺院などで見る伝統文化と、この現代文化を広く比較することができました。プログラムに関しては、やはり現地学生との共同発表に関する改善点があると思われます。たとえば、現地学生の日本語のレベルを事前に把握できる機会や、発表準備に割ける時間の有無、またはその程度などを知る機会があれば、冒頭で述べた言語・時間の制限をもっとなくすことができたのではないかと思います。また、日本での事前タイ語学習と、タイでのタイ語学習の内容の多くが重複していたことも改善点として挙げられるのではないかと思います。しかし、それらを除けば、チュラーロンコーン大学での学習は濃密なものでした。特に英語での解説を踏まえたアユタヤ訪問や、タイ舞踊実習などの体験型の学習はとても印象深いです。

以上が、今回の派遣留学スプリングスクールの派遣報告です。